

第9学年 道徳科 指導案

日 時 令和3年1月16日(土) 第3校時

対 象 第9学年

学校名 板橋区立志村第三中学校

1 主題名 他人を思いやる心 【B-(6) 思いやり・感謝】

2 教材名 『カーテンの向こう』 (教育出版)

3 ねらいとする道徳的価値について

思いやりの心は、自分が他者に能動的に接するときに必要な心の在り方である。すなわち、他の人の立場を尊重しながら、いたわり、励ます生き方として現れる。したがって、思いやりの根底には、人間尊重の精神に基づく人間に対する深い理解と共感がなければならず、単なるあわれみや同情と考えられるべきものではない。しかしながら、私たち人間は、とかく利己的な考え方や自己中心的な言動に陥りがちである。他の人との関わりの中で、自分も他の人もともにかけがえのない人間であるということを自覚できるようにすることが必要である。その上で、思いやりの心をもって人に接することができるような態度を育てることが大切である。

4 ねらい

相手のおかれている状況や立場に立って物事を考え、思いやりの心をもって接していこうとする心情を育てる。

5 本時の流れ

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	○クラスのことで最近、気になっていることを挙げさせる。		○発表はさせないので、気になっていることを正直に書くように指示する。
展開	<p>1. 資料前半部分の範読を聞き、病室内の状況を把握する。</p> <p>2. 「病室内の人々の気持ちを考える。」 発問1</p> <p>3. ヤコブに対する「私」の気持ちの変化を考える。 発問2</p>	<p>発問1 ヤコブの話聞いて、同室の人々はどんな気持ちだったろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちが明るくなる。 ・外の様子を伝えてくれて、ありがたい。 ・自分もカーテンの外をのぞいてみたい。 ・外が見られてうらやましい。 など <p>発問2 ヤコブに対しての「私」の気持ちはどのように変化していったらうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めは感謝していた。→うらやましくなった。→憎らしくなってきた。→ヤコブが死ねばいいと思うようになった。 	<p>○「私」の心の変化に注意しながら範読を聞かせる。</p> <p>○ヤコブの話が、重く沈んだ病室の人々に期待と希望を与えていることを押さえる。</p> <p>○自己中心的な考え方に走りがちな人間の一面について触れる。</p>
展開	<p>4. 資料後半部分の範読を聞き、話の結末を知る。</p> <p>5. 「カーテンの向こう」を知った「私」の気持ちを考える。 発問3</p> <p>6. 窓ぎわのベッドに移った「私」になりきって、これからのことを考えてみる。 発問4</p> <p>7. それぞれの考えを発表する。</p>	<p>発問3 「カーテンの向こう」を知った「私」はどう思ったらうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤコブは自分たちのために嘘をついていたんだ。 ・ヤコブは思いやりのある人だったんだ。 ・ヤコブをひどいやつだと思った俺はばかだった。 ・ヤコブを疑って悪いことをした。 ・ヤコブは嘘つきだ。 ・俺たちはだまされていたのか・・・ <p>発問4 窓ぎわのベッドに移った「私」になりきって、自分ならこれからどうするらうか。その理由も考えよう。</p> <p>A 病室の人を喜ばせるようなヤコブの嘘を続ける。 B 「カーテンの向こう」の真実を伝える。 C その他の行動</p>	<p>○病室の人々から何と言われようと耐え抜いて、最後まで嘘をつきとおしたヤコブの気持ちを想像させる。</p> <p>○「私」を自分に置き換えて、どのような行動を取るか、その理由も含めて考えさせる。他者のためにどのような行動が最善であるか考える。様々な思いやりの形について考える。</p>
まとめ	○今日の授業を振り返りつつ、受験シーズンを迎えた教室で自分ができることは何かについて書く。		

6 評価

ねらいについて

ヤコブの嘘が、病室の仲間に対する「思いやりの心」であることに気づくような発言や記述があったか。そして、他者の立場に立ったとき、どのような行動が最善であるのか、自分なりの考えを示すことができたか。